

ったため、自分達が積極的に何をしたいということはないのに、疲労多き一日であった。

三日目は大田原からバスに乗って、北北西の方向にある高林に行く。安広さんというタバコ栽培農家へ、きき込みのため14名で押しかけ、タバコの集荷場を見る。安広家は、水稻4反、タバコ5反、牛6頭を飼育している複合農家であり、タバコの乾燥作業の最中であった。タバコは病気になりやすい作物なので、連作は避け、陸稲と一年おきの輪作をしているという。タバコの栽培条件は、高温多湿、排水が良好であることだそうだが、葉の乾燥のために広い家も必要であるという。那須野においては、若い人達がタバコ栽培を嫌うため、減少しつつあるという。それに代わって酪農が徐々に増加している。又、安広家のように種つけだけをして、分娩前に売る家もある。

古くからの用水路は現在では、底にビニールをしいたり、コンクリート管に替えたりして、水もれを防いでいる。新しく開田した田もブルドーザーで床じめをして水もれを防ぐという。河川や用水路のあちらこちらに取水口が見られ、豊かな水が流れていた。

最終日は、近くの城山の見晴し台に上り、大田原の町を一望のもとに見渡す。真近に見る印象とは違い地表の地物が総合的に観察され、新しく開かれた水田を地図と比較して探したり、高所の有効性を知らされた。

那須扇状地にも北関東の特色の一つである屋敷森が多く見られ、かし、杉、ひのき、竹などが植えられ、用材としても利用されているという。北風よりむしろ、南風の暴風、台風が多いという話であった。又従来のカヤブキ屋根よりはむしろトタン屋根の方が、風に対しては強いということである。家屋構造は養蚕の名残りの煙出しのある家が多く見られた。

一つの、あるまとまった地域を綿密に調査する巡検は初めてであったが、一日中歩き回ることがいかに重労働であるかを知らされた。年令的には松井先生の $\frac{1}{3}$ ほどの我々生徒が疲れた、疲れた、と首をあげても、先生はもくもくと調査を続け、少しも休もうとはなさない。精神力が強く、お元気なのは本当に驚かされた。根気のいる野外調査の実際を教えていただけて幸いとおもっている。

この巡検のもう一つの思い出は、三日目にきき込みに行った安広さんのお宅でだして下さったおいしい、おいしいトマト。那須というと松井先生のお顔とおいしいトマトを今でも思い出します。

(4年 石井記)

山形・秋田巡検 (式教官)

(4年実施)

昭和44年5月5日～9日

「東北の5月はヨーロッパの光の春を思わせる」という式先生の言葉に誘われて、合憎のくもり続きではあったが、リンゴの花盛りの東北へ、春を2度迎える気持で大学生活最後の巡検に旅立った。

山形駅集合、男鹿半島寒風山山頂解散という、奥羽本線、陸羽西線、羽越本線を乗り継いでの大旅行であった。

巡検の目的は、東北地方の中央盆地列、出羽山地と日本海側平野を比較し、各々の自然と土地利用の関連性・特色を把握した上で、将来の開発に対する可能性を全国的視野から考えてみる、という点にあったが、スキー観光を主とした温泉集落、出羽山地のカルデラ、シラス、地すべり地形、象潟の地盤隆起、各都市の歴史と都市計画等盛沢山な内容に、個々の事象の観察で精一杯という処であった。

東北地方はその地理的位置からして、日本の後進地域として取残されているが、反面そのために、昔ながらの城下町等の面影が残り、近代的土木技術を導入しながらも、河川水運と集落立地や城下町としての機能文化等の歴史的條件が、市町の都市計画の上に反映している事がよくわかった。しかし各市が工業誘致等により、第二次、第三次産業中心の都市的発展を試みているのは全国的傾向に同調するもので、勿論その中で、不利な交通位置、気候条件を如何にカバーするか等の東北地方固有の問題はあるわけだが、東北地方の地域性は農村において顕著であるとおもわれる。

東北地方は冬期の積雪が地域開発の重大な障害となっており、農業的にも遅春早秋、局地的な積雪量の微妙な差等が、農作物の選択を規制しており、全体的傾向としては水稻が中心である。積雪のため、冬期の作付は不可能で、出かせぎ等の問題もあるが、山形、秋田は表日本に比べ、比較的温暖な気候で江戸時代の、主として関西商人出身の大地主支配のもとでの水稻中心の農業の伝統があり、政府の米価対策、交通位置等の問題もあって、山間の豪雪地帯に至るまで、水利のある限り、米作が行なわれている。畑作地として昭和初期開拓の昭和村も深井戸採掘により昭和38年より開田され、3町歩平均の大規模経営を行い、又、八郎潟の大潟村では10ha平均の機械化経営を行う等、大規模米作農業も出現している。開田が不可能な、例えば神町では桑畑としても北限であるため、リンゴ、桜桃を中心とした果樹作が行なわれ、リンゴは紅玉中心のため、高級品種への転換を余儀なくされているとはいえ、後継者問題も無という農村の意気を見せている。

最近大潟村への第六次入植打切りが報じられたが、大潟村の将来の見通しも充分ではないことを現地で見聞しつつも、他に変わる作物の無い以上、現在の食生活では米作中心の農業が今後とも、山形、秋田では展開していくであろうという農業の姿勢が、各地を通じてうかがえた。

結局、山形、秋田は地下資源開発の見通しも薄いまま、冬のスキーを中心とした観光、軽工業誘致を促進しながら、一方で積雪対策を計り、全体として米作を中心とした農業を存続しつつあるという現状にあるようである。

又、東北の文化史上、重要な位置を占めるとされるものに、羽黒の山伏がその勢威を天下に誇った山岳信仰の中心地、出羽三山がある。三神合祭殿前の鏡池から出土する銅鏡の数、古さから見ても、三山の信仰は古く、重要なものであったことがうかがえる。私達は羽黒神社の宿坊に一泊することができ、雪の未だ消えやらぬ神社傍でその雰囲気を感じたわけだが、往路、眼を見張らせられた。

年中雪をいだけ月山のアスピーテ型のおおらかな山容や四季折々の激しい変化等東北の風土と、三山の厳しい山岳信仰との間には密接な関係があるのではないかと思われた。それは広々とした砂利道、やさしい五十鈴川の流れて満たされて、壮嚴ではあるがいかにも自然と人間とが融合しあったような、あの伊勢神社のようではなく、荒々しい自然とのたたかい、しかし、それは必ずしも敵対関係にあるとは限らない、という印象であった。

生半可な感想ではあるが、この東北巡検により、東北の地域性について目を向ける機会があったことが、巡検の最大の収穫であった。
(4年 伊坪記)

好評のうちに完結

理学博士 中野尊正監修 アジア航測株式会社編

各集 垂直写真・斜写真・実体視写真・余色写真・地形図・別冊解説付
A4判 16~7葉 各価 480円

第Ⅰ集 日本の自然

[表紙]日本の特性を学ぶ必要—新潟地震によって炎上する貯油所⑥V字型の峡谷—黒部川上流の十字峡 他16葉

第Ⅱ集 日本の山・川

[表紙]フォッサ・マグナと富士火山帯 ④多重構造をもつ火山—樺名火山 ⑥トロイデ型の焼岳 他15葉

第Ⅲ集 日本の平野・海岸

[表紙]陸繋された函館山 ④南九州のシラス台地 ⑥信濃川の自然堤防 ⑥石狩平野と石狩川の自由蛇行 他

第Ⅳ集(上) 日本の都市機能

[表紙]都市機能—三重県・四日市 ④現代の宗教都市—奈良県・天理市 ⑩大都市重工業地域—尾崎市 他14葉

第Ⅳ集(下) 日本の都市の地域構造

[表紙]都市の地域構造—東京タワー付近 ①宅地造成—東京都・桜ヶ丘 ④臨海工業の飛地—愛媛県松山市 他

第Ⅴ集 日本の集落

[表紙]最古の計画的条里の村—奈良盆地の例 ⑤地すべり地の村—新潟県虫亀地区の例 他15葉

第Ⅵ集 日本の土地利用

[表紙]地形によってことなる土地利用景—伊豆半島の例 ⑩地すべり地域の土地利用景—北九州北西部 他15葉

第Ⅶ集 日本の災害

[表紙]崩れゆく富士山頂 ⑧山地の崩壊物による谷底の埋没—姫川の例 ⑨土石流災害—西湖畔の例 他14葉

第Ⅷ集 日本の開発と保全

[表紙]日本列島の未来像の建設 ⑩水資源の開発—園原ダムの例 ⑨火山地域の開発—大室山付近の例 他14葉

航空

写

真

で

み

る

国

土

本写真集はアジア航測株式会社が所有する何万枚かの空中写真の中から中野尊正博士が選択されたものをもって各集を製作したものであります。なお、御希望により本集所収の写真(印刷)を1種類につき25枚以上、1枚40円で分売致します。

全
八
集

古今書院